

2016-07-28 講義資料—前回報告の感想等

今回もそれぞれの報告テーマに関して、「非常に面白かった」、「全く知らなかった」など、個別報告の多様性からヨーロッパ社会の歴史と現在に対する多くの視点を得たことに満足する感想が多かった。

1. シンティ・ロマの歴史と現状—アウシュヴィッツにおける虐殺に関連して—
 - a. 働かず盗んで生活しているイメージがあり、ユダヤ人と同じように殺されたそうですが、このイメージが本当なのか気になりました。
 - b. “ジプシー”とは、「国内秩序を乱すような行為をする移民」のことを示す言葉・意味だと思っていた。ヨーロッパに旅行に行った際、実際にそのような3人組の女性に囲まれてお金を取られそうになった経験もあり、そのようなことをする人たち（移民）を総括してジプシーというのだと思っていた²。
 - c. ジプシーという言葉は以前聞いたことがあったが、差別対象になっていた民族だったと聞き、驚いた。
 - d. アウシュヴィッツ収容所に収容されていたのはユダヤ人だけではなく少数民族（ジプシー、ロマ）もだということなど、…新たな発見が多く、来ていて面白かった。
 - e. ジプシーという言葉が差別用語として用いられていて、非がない人にも「あの人はジプシーだから」と一括りにしてしまう。…これはジプシーについてだけでなく、「在日」や「イスラム教の人」にも同じことがいえると思う。自分と「異なる」バックグラウンドの人について考えるときは、まずその人たちはどういう歴史があったのか、どのような生活をしてきたのかなどを踏まえて、〇〇人というカテゴリーではなく、「人」として捉えるよう心掛けなければと感じました。
2. HUGO BOSS について
 - a. 軍服の細かい部分にもそれぞれの思想などが混じっていて面白いと思った。
 - b. このブランド名は初めて知りました。発表は面白くて興味深かったのですが、後の質問の中で、シャネルがナチスと近かったと聞いてとても驚きました³。シャネルの本が好きでよく読むのですが、そこにも書いていなかった⁴ので勉強になりました。

1 フランクフルトのパウルス教会やその他いくつもの都市に、「この町からシンティ・ロマがアウシュヴィッツなど強制収容所に連行され殺害された」といった記念の銅板が掲げられている。ナチス支配下に約50万人のシンティ・ロマ（通常という言葉では「ジプシー」、これは差別用語ということで、ヨーロッパでは、該当する人々の自称であるシンティ・ロマを使う）が殺害された、と。

2 ジプシーと移民とが、モノをとるような「危険な人々」とひとくくりにイメージされているという現実がありますね。なぜ、ジプシーという言葉を使わないで、シンティ・ロマという民族名を使うようになったかも含め、正確な歴史認識を形成する必要がある、今回の報告がその非常に重要なきっかけになりました。

3 シャネルも最近、数年前でしたか、映画になりました。何かの折に一度見ておくといいですね。

4 何が書かれ、何が書かれていなかったか、これこそ非常に大切なことです。歴史発見！！「書かれた歴史」の背後に、「書かれなかった歴史」、「歪曲された歴史」があります。そう

- c. HUGO BOSS に目をつけるところに鋭さを感じた。…SS 制服は実用性はさておき、とてもスマートで、ある意味ナチ党のイメージ戦略の一端を担っていたのは確かだろう。高身長イケメンを選抜していた SS のメディアを通じたびじていづな印象というのは大きかったのではないか。
3. 《レ・ミゼラブル》から見るフランス革命
 - a. 映画を観て「感動した」ということで終わらせることなく、歴史背景を学ぼうという姿勢が素晴らしいと思った。
 - b. レ・ミゼラブルからフランス革命や7月王政にメスを入れるというのは面白いと思うが、やはりミュージカルや小説は歴史を美化しすぎたり、偏った視点で描いていることがあるので、そこに注意すべき⁵だと感じた。
4. 配布資料・・・南シナ海紛争に関するハーグ常設仲裁裁判所の判決・・・中国の主張に「法的根拠なし」について。

中国の主張する歴史的権利としての「九段線」という概念の法的根拠を否定した意味では評価できるが、一方で、太平島のような、十分に島と認められているもの⁶まで、一様に島と認めなかったのは、問題があるのではないか。
5. 海外フィールドワークと研究との関係

海外 FW で受けた刺激から設定したテーマ（今回のシンティ・ロマ、HUGO BOSS、以前のヒトラー・ユーゲントやハンナ・アーレントなど）が多く、一緒にそのフィールドワークに参加した自分からすると、友人たちが実際に受けた衝撃や疑問・感心をこうして論文にまとめ上げて行っていることに、現地へ赴くことの重要性を再確認した⁷。

した歴史の違いを発見することも、研究の重要な意味です。

毎日流されるニュースも、正確なものやねつ造のものがあります。書かれた歴史についてもそうです。

⁵ まさに、そのとおりで、今回の報告も、その歴史的背景を探求しようとしたものですね。映画も、歴史書も、小説も、描かれ方、叙述の仕方に、「偏り」や「歪曲」、「美化」など様々の問題があり得ます。だからこそ、さまざまな文献・史料にあたって、研究してみる価値がある。

⁶ 「十分に認められている」かどうか、それを否定したのが、今回の裁定ですね。「認められてはいない」と。今後、国際海洋法の規定・条文をどのように適用するかをめぐる意見対立が続くかと思われませんが、仲裁裁判所が数年かけて証拠資料を検討し、500ページの裁定書（判決）をまとめたのですから、その裁定書の内容の検討が重要な課題となりますね。法律学者、歴史学者などが、判決の内容全文を丁寧に検討して、いろいろ発表することでしょう。今後も、冷静に、公開される情報を見ていきましょう。

⁷ まさにその通りですね。と同時に、現在、日々経験している問題（自分が、私たちが現場感覚で体験している諸問題）、すなわち、世界中の格差拡大、中東の深刻な戦争状態、移民問題、テロ事件とうを問題関心の出発点として、冷戦解体後のこの4分の一世紀の巨大な変化を考え、冷戦期、あるいはその前の二つの世界体積の諸問題、ファシズム、社会主義、資本主義、帝国主義という20世紀の問題を探求するのも、実に重要な骨太の問題意識であり、じっくり腰を据えて研究していくべきものですね。